

令和 4 年度 自己評価報告書

令和 5 年 3 月 10 日
アンビシャス国際美容学校

目次

I. 学校の現況.....	1 ページ
II. 評価の基本方針.....	2 ページ
III. 重点目標.....	3 ページ
IV. 項目毎の記述.....	4～8 ページ

I. 学校の現況

(1) 学校名 アンビシャス国際美容学校

(2) 所在地 大分県大分市大字市 551 番地

(3) 沿革 2003 年 『ワールドビューティーアカデミー』開校（大分市新明治）

（厚生労働大臣指定 美容師養成施設）

2004 年 『アンビシャス国際美容学校』に校名変更

2007 年 わさだエリアに校舎を新設移転（大分市市）

2010 年 大分県知事の認可を受け専修学校に移行

2013 年 創立 10 周年 記念事業実施

・「アンビシャス国際美容学校同窓会」発足

2018 年 創立 15 周年 「超美容師特化型カリキュラム」始動

・「AMBI 祭」会場をトキハわさだタウンへ

2019 年 高等教育の修学支援新制度の対象校に認定

2021 年 文部科学大臣より職業実践専門課程に認定

(4) 学科の構成

美容科 昼間課程 ／ 美容科 通信課程（春期・秋期）

(5) 学生数及び教職員数(2023 年 3 月 1 日時点)

学生数	美容科 昼間課程	28 名
	美容科 通信課程	36 名
教職員数	専任教員	7 名
	兼任教員	5 名

(6) 施設の概要

普通教室 2、実習室 1、消毒室 1、多目的室 1、図書室 1、職員室 1、理事長室 1、医務室 1

II. 評価の基本方針

(1) 学校評価への取り組み

学校が実践的な職業教育等を目的として自らの教育活動やその他の学校運営について、関係業界等のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者等への適切な説明責任を果たすとともに理解と参画を得ることで、連携と協力による特色ある学校づくりを進める。

これにより、学生が質の高い実践的な職業教育等を享受できるよう、学校運営の改善と充実を目指すための取り組み。

(2) 自己評価

評価項目・指標等を設定し、また外部アンケート等を活用し、自己評価を実施する。

【自己評価項目】

- 教育理念・目的・人財育成像
- 学校運営
- 教育活動
- 学修成果
- 学生支援
- 教育環境
- 学生の受入れ募集
- 財務
- 法令等の遵守
- 社会貢献・地域貢献

【外部アンケート】

- 在校生アンケート（学校生活に関するアンケート・授業アンケート）
- 卒業生アンケート
- 就職先アンケート

(3) 学校関係者評価

学校関係者を選任し、学校の諸活動の観察等を通じて、当該年度の学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価を実施する。

III. 重点目標

(1) 重点目標

美容室との連携強化と、国家試験全員合格を当たり前！

①美容室との連携強化

前年度の【(4) 今後の取組－「そもそも、お客様は髪質も頭の形も異なっており、常に同じやり方で施術することはできない！また、接客もそれぞれ異なる対応を求められることが当たり前！」の視点から、教え方を統一するのではなく、技術の基本を徹底し、様々なアレンジを吸収できる状態を目指す。具体的には、基礎の部分は統一されたマニュアルで AMBI 教員、または超美容師特化型カリキュラム編成委員の講師により指導を行い、その後、様々な美容室の現役美容師を講師として招聘し、様々なスタイルにチャレンジする授業を展開する。「カットのやり方は人それぞれ違って当たり前」の感覚を身に付け、「教え方が違うから習得できない」から「こんなやり方もあるんだ。習得したい」の意欲的柔軟な姿勢への転換を図る。同時に、様々な講師が入れ替わることで、「この瞬間しか学べない」という積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。】により、連携強化を図る。

また、教員も全員参加する超美容師特化型カリキュラム拡大会議を実施し、現状と方針を相互に理解し、連携しながら育成にあたる。

②国家試験全員合格

学生の学力の差はあれど、少人数制によるきめ細かな指導を謳っている以上、“当たり前”にすることは責務である。

(2) 取組状況・成果

①基礎の部分では、本校教員と超美容師特化型カリキュラム編成委員による授業を実施し、応用の部分では、様々な現役美容師を招聘した。講師が度々入れ替わることによる理解度の混乱も予想されたが、積極的に学び、美容師の技術の楽しさを実感したようで、当初美容師志望でなかった学生も全員美容師志望の進路を選択した。

②国家試験課題の指導教員を増やす。昼間・通信課程ともに、国家試験実技課題の授業は原則全教員が担当とし、昼間課程については、国家試験実技担当リーダーの采配で教員配置する。特に、通信生は進捗の異なる学生が存在するため、複数人での授業運営を基本とした結果、よりきめ細かく指導ができている。

(3) 課題

①課題とまではいかないが、まんべんなく就職につながると、WinWin の連携になれる。

②不登校気味の学生には、別途精神面の指導が必要であり、合格への学習指導にまで到達しない場合がある。

(4) 今後の取組

①講師からより多くの学びを引出し、学生もより多くの学びを得る有意義な時間にするには、本校教員が授業をコーディネートする必要がある。単なる継続ではなく、進歩を。

②「学校に足が向かなかったから仕方がない」や「言っても練習しなかったから仕方がない」といった、学生による結果とならないように試行錯誤していく。

IV. 項目毎の記述

(1) 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念・目的・育成人財像・育成目標は定められているか。	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人財像・目標などが、職員・学生・業界関係者・保護者等に周知がなされているか。	4	③	2	1
社会や業界のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか。	④	3	2	1

①課題

周知ということにおいて、努めているつもりだが、相手が理解して把握できているかといえ、難しい。学生の個々の目標を見るに、学校の目標とはかけ離れていることもある。

②今後の改善方策

目標や理念は変わらない。時流に合わせて柔軟に調整し、習得できる環境を整える。

③特記事項

学校の掲げる方針等に対する業界関係者（保護者も含む）からの理解や支持を耳にすることが徐々に増えてきた。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念等に沿った運営方針が定められているか。	4	③	2	1
運営方針を実践するための事業計画が策定されているか。	4	③	2	1
運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか。	4	3	2	①

①課題

定めは十分だが、相変わらず定めも教職員・学生ともに浸透が一律ではない。決定や進行がギリギリであったり後手に回ることもある。また、定めに立ち返るよりは、その場の判断になってしまうこともある。

②今後の改善方策

教職員間の連絡や情報共有する時間を大切に、確認を怠らない。共通認識のもと、学校運営にあたる。

③特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
育成目標を達成するための修業年限に応じた教育到達レベルは明確にされているか。	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等との連携によるカリキュラムの開発・作成が行われているか。	④	3	2	1
学生の現状や業界のニーズにより、教育方法の工夫・見直しが行われているか。	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	③	2	1
成績評価、進級・卒業の認定基準は明確かつ適切に運用されているか。	④	3	2	1
育成目標を達成することができる要件を備えた教員が確保されているか。	④	3	2	1

①課題

個人差がある。

②今後の改善方策

技術以前の人間性を求める企業も多く、日々、技術向上と人間性の成長の両輪による指導を行う。見過ごさない。その都度指導。

③特記事項

今年度、卒業後すぐの4月からスタイリストとして活躍する卒業生が誕生した。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
就職指導計画が策定され、就職率の向上が図られているか。	④	3	2	1
資格取得指導計画が策定され、資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2	1
卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2	1

①課題

相変わらず、同窓会は機能していない。

②今後の改善方策

同窓生セミナーは好評だ。継続する。

③特記事項

就職先アンケートに、“社会人として”という部分を求める記載が増えた。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
進路に関する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか。	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか。	4	3	②	1

①課題

以前に比べると、進路が定まらない学生が出てきたように感じる。なかなか応募に踏み切れない者や、内定辞退する者もいた。保護者との連携は、学生を通じての家庭もあれば直接の場合もあるが、直接の場合は、どうしても問題が発生した時が多い。

②今後の改善方策

担任面談と進路面談を時期を決めて学期ごとに実施し、一人ひとりに向き合う。

③特記事項

全員美容師の内定をいただいた。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	③	2	1
学外実習等に関する体制は整備されているか。	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか。	4	③	2	1

①課題

with コロナの時期に入ったが、やはり、コロナ禍であることを理由に変更が余儀なくされたこともあった。

②今後の改善方策

5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが5類に引き下げられる予定。必要な感染対策は継続するが、いよいよ当該事由による制限はなくなりそうだ。

③特記事項

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
高等学校等接続する機関に対する情報提供の取り組みが行われているか。	4	3	②	1
学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか。	4	3	②	1
学納金は妥当であるか。	④	3	2	1

①課題

ガイダンスなど、高校生と直接対面できる機会が全くない。

②今後の改善方策

高校訪問の再開。進路サイトとの契約。一部ガイダンスへの参加。

③特記事項

教材費が高騰しているが、学納金に変更しない。しかし、2024 年度入学生から教材費に含まれていた制服代や国家試験受験料などを別途徴収する。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1
学生数変動に応じた計画が組まれているか。	4	③	2	1

①課題

2023 年度昼間課程の入学予定者は少ない見込み。(ただ、通信課程への入学者が増えており、とりあえずは財政面が逼迫している状態ではない。)

②今後の改善方策

コロナ禍にほとんどできなかった学生募集活動を再開させ、入学者増を目指し、財政面を安定させたい。教職員の給与は、入学者数だけでなく、時流も考慮する。

③特記事項

変わらず借金なし。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	③	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	③	2	1

①課題

努めているが、手探りの部分もある。後手に回ることもある。

②今後の改善方策

継続して努めていく。

③特記事項

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により学校評価委員会の開催を中止。書面にて評価を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	③	2	1
地域に根差した学校となるための活動を積極的に実施しているか。	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4	③	2	1

①課題

with コロナの時期に入り、案内も増えてきたが、積極性には個人差がある。

②今後の改善方策

全体への案内に加え、個別アプローチも必要。

③特記事項

現在の主な地域交流…清掃活動、AMBI 祭 in わっタン、保育園や養護施設との交流

令和 4 年度
学校関係者評価報告書

令和 5 年 3 月 31 日
アンビシャス国際美容学校

1. 学校関係者評価委員

《美容関連企業》

(株)エフ・ワイ・シー 執行役員

said. hair and lifestyle 代表

《地域協力企業》

有限会社ぶんどう 取締役

2. 令和4年度年度の委員活動等

4月 校長が各委員へ当該年度の取り組みを個別に説明。

4月20日 said. hair and lifestyle 代表が新入生を対象に授業『同窓生セミナー』を実施

7月22日 (株)エフ・ワイ・シー 執行役員が2年生を対象に授業『美容経営学』を実施

11月2日 全委員が校内コンテスト『AMBI杯』に審査員として参加。

翌3月 書面による学校関係者評価を実施。

※入学式及び卒業式に来賓としての参加はコロナ禍のため見送り。

3. 令和4年度 学校関係者評価報告

以下の項目についての評価結果は別紙の通り。

I. 学校の現況

II. 評価の基本方針

III. 重点目標

IV. 項目毎の記述

V. その他

I. 学校の現況について

昼間・通信ともに学生数が増え、活気あふれる学校として、これからも益々の繁栄に期待する。学校としての受け皿の認定は着実に受けているが、昨年から比べると、昼間生の減少と通信生の増加が見られるが、その方向性などが知りたいところだ。

II. 評価の基本方針について

素晴らしい評価方針だ。
特段変更が無いようなので、引き続き努めてほしい。

III. 重点目標について

(1) 重点目標

「国家試験全員合格は当たり前！」の目標は、とても素晴らしいと思う。
現在の、特化型カリキュラム導入後の卒業生の動向（活躍、職場など）も気になるところだが、その価値の益々の活躍に期待する。
実績あるサロンやスタイリストさんが教えにきてくれることは、学生にとっても説得力があり効果的だと思うが、なかなか時間の取れる講師を見つけることが難しくなっていくと思うので、そこが大変そうだと感じた。
ここ数年の合格率が気になる。
具現化されており、国家試験全員合格の結果も楽しみだ。

(2) 取組状況・成果

素晴らしい。
楽しさを感じる学生がいたことはとても良かったと思うが、色々な学生がいるのが現実だと思うので、そうでないと感じる学生への声掛けなども大切だと思う。
より具体的な取り組みは、素晴らしい。

(3) 課題

課題解決のための工夫をお願いしたい。
新卒採用をしたいサロンにセミナー等に来てもらうことは、確かに win win だと思う。
様々な方向性に柔軟に対応できる指導方法は難しいだろうが、学生や店舗の意見をつなぎながら頑張してほしい。

(4) 今後の取組

素晴らしいと思うので、さらに、より具体的な方法を学校内で協議し、取り組むことに期待する。
すばらしい取り組みだと思うので、試行錯誤しながらも積み上げていってほしい。

IV. 項目毎の記述について

(1) 教育理念・目的・人財育成像

学校の教育理念・目的・目標は素晴らしいと思う。あとは、理念・目的に沿った学校経営に期待したい。

「社会や業界のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか」の評価が上がっているが、ニーズとは「挨拶」だろう。そこが、年々できない学生が増えているように思える。

(2) 学校運営

掲げられた改善点、特に不適切項目に関しては、早急に取り組みを行うことを期待する。

学校評価をするようになってから、毎回この課題があるように感じる。せっかく十分な定めがあるのなら、浸透できるように考えるべきだと思う。

コロナ禍の変化によって、今後の活動の真価が問われると思うから、頑張ってもらいたい。

(3) 教育活動

経過、結果ともに素晴らしいと思う。

卒業後すぐにスタイリストとして活躍できる卒業生がいたことはすごいことだと思う！学校現場で人間性を磨くということも難しいことだと思うが、柔軟な年頃なので、ちょっとした一言でも変わるきっかけになることがあるはずだから、そのきっかけを作ってあげられるように、自己評価に書いてある通り“見過ごさない”根気強い指導が必要だと思う。

なかなか教育をする側とされる側の方向性や意志が合致することは、時間がかかるので頑張ってもらいたい。学生側に、キャプテンシーのとれる性格の人物を発掘・試行することも面白いと考える。

(4) 学修成果

問題ない。あとは、課題克服されるともっとよろしいのではないかな。

様々な団体が機能不全になっている社会なので、同窓会を機能させるのも難しいと思う。だが、自発的に学ぶ場としては大切な機能なので、引き続き支援して欲しい。

(5) 学生支援

保護者等との連携は、かなり困難な事だと思うが、接触回数（面談、手紙など）を多くすることが、連携強化につながるのではないかな。

これまでと違って、全員美容師の内定ということは、ここ数年の取り組みが形になってきているということだと感じた。

専属人員を配置できれば、劇的に学生募集や進路においても変わってくると考える。

(6) 教育環境

コロナも含め、まだ不安定要素の多い環境での取り組みになるだろうが、その時々で最善の対応を期待する。

環境としては、十分だと感じる。

(7) 学生の受入れ募集

課題克服に期待する。

おしゃれな学生を連れて高校へガイダンスに行くのも、憧れを持ってもらえるチャンスだと思う。

2項目での評価2が、3に上がるように頑張ってもらいたい。

(8) 財務

回答を控える。

健全経営は素晴らしい。

(9) 法令等の遵守

特に問題ない。

適正に守られている。

(10) 社会貢献・地域貢献

素晴らしい活動を継続できることを期待する。

コロナ禍の変化によって、活動も計画もしやすくなると思うが、先生方の発案だと日々の業務を優先せざるを得ないので、学生に企画・発案させてはどうか。

V. その他、ご意見等

今まで以上に学校での時間が大事になってくると思うので、今後も美容業界の発展に尽力するようをお願いしたい。

在校生アンケートで、授業が早い、ついていけないという声があるので、そういった声には、耳を傾けて改善策を考えてあげてほしい。

以前より、前向きな記載が増えているように感じて嬉しくなった。この調子で、“大分の美容専門学校といえば AMBI”というイメージになれるとよい。

先生方の明るさで学校全体の空気感が良いといつも感じている。一方で、社会の変化に伴い、教育の位置づけも年々難しい局面を迎えているようにも思える。次世代のリーダーを育成する役割として引き続き努めてほしい。